

アジア諸国への野菜新品種の導入 及び育種素材としての活用支援[新規]

【18（0）百万円】

対策のポイント

世界蔬菜センター（AVRDC）が保有する野菜の品種・系統をアジア諸国と共同で評価・活用することにより、アジア途上国の栄養改善を図るとともに、我が国種苗産業の海外展開に必要な環境整備を推進します。

<背景／課題>

- ・野菜に関する国際研究機関である世界蔬菜センター（AVRDC）は、途上国の貧困削減と栄養改善のため、野菜に関する技術開発及び遺伝資源の保存・配布を行っていますが、アジア途上国では自国に適した品種の選抜・導入が遅れています。
- ・一方、急速に成長するアジア地域は我が国の種苗産業の有望な市場であり、有望な遺伝資源を活用し、優良な野菜品種をアジア地域に導入するなど、我が国種苗産業の国際競争力の強化に向けた官民が一体となった取組みに期待が高まっています。
- ・このため、世界蔬菜センター（AVRDC）のネットワークを活用し、アジア諸国の研究機関及び我が国関係機関との連携により、AVRDCが保有する野菜品種・系統を特性評価し、アジア諸国及び我が国に導入するための環境整備を推進します。

政策目標

- アジア諸国に優良野菜品種が10以上導入され、貧困削減や栄養改善に貢献
- 我が国種苗産業の国際競争力を高め、アジア諸国における事業展開を促進

<主な内容>

アジア諸国への野菜新品種の導入及び育種素材としての活用支援 18（0）百万円

世界蔬菜センター（AVRDC）が保有する野菜品種・系統について、AVRDC、アジア諸国の研究機関、我が国関係機関の連携により、アジア諸国の栽培環境等に適した品種を評価・選抜するとともに、優良な野菜品種・系統のアジア諸国への導入や我が国への育種素材としての活用を支援します。

〔 拠出先：世界蔬菜センター（AVRDC）
事業実施期間：平成30年度～平成32年度 〕

〔 お問い合わせ先：
大臣官房海外投資・協力グループ （03-3502-5913）
食料産業局知的財産課 （03-6738-6444） 〕

アジア諸国への野菜新品種の導入及び育種素材としての活用支援

事業概要・目的

- 海外では種苗会社の再編統合が進むなど、種苗産業の国際競争が激化
- 急速な成長が見込まれるアジア途上国は有望な市場



<目的>

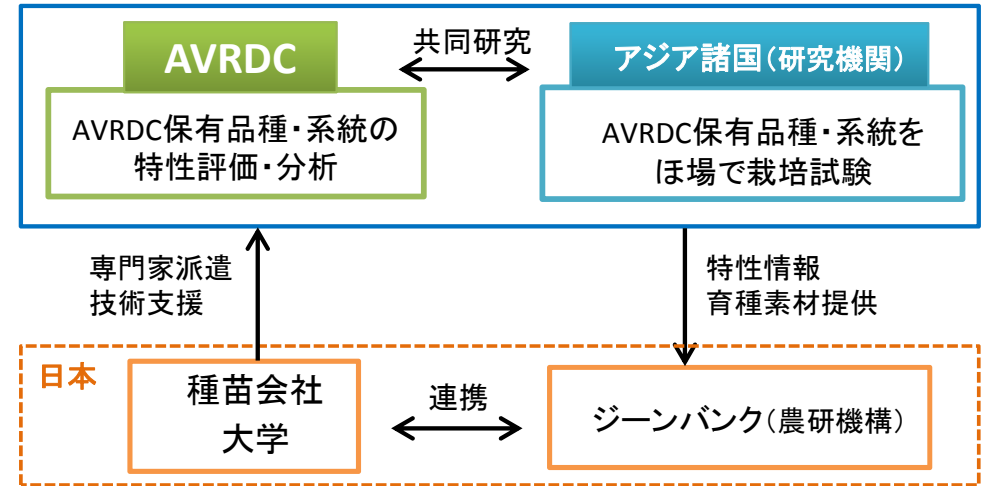
- 1 アジア諸国の貧困削減・栄養改善のため、アジア諸国に野菜の優良品種の選抜・導入
- 2 我が国種苗産業の国際競争力を強化するため、官民が一体となり、海外の有望な遺伝資源を評価・活用



<事業概要>

- 1 国際機関最大の野菜ジーンバンクを有する世界野菜センター(AVRDC)が保有する品種・有望系統を評価
- 2 有望品種のアジア諸国への導入、優良系統の育種素材としての活用を支援

事業イメージ



成果の活用例

- AVRDC保有系統(カボチャ、トマト、トウガラシ等)から、重要病害の抵抗性系統等を評価・選抜し、優良な品種開発に利用

資金の流れ



期待される効果

- アジア諸国に優良野菜品種が導入され、途上国における貧困削減や栄養改善に貢献
- 我が国種苗産業の国際競争力を高め、成長著しいアジアで優位に事業展開